

志波さんが社会活動に取り組むきっかけとなった出来事には、ベトナム戦争が挙げられます。志波さんの小学生時代、毎日のように報道されるベトナム戦争の様子を見て、「平和に暮らしたい、殺されたくないし人を殺したくない」と素朴に思ったことがきっかけである、と述べられていました。また、大学時代において、「協同組合論」に出会い学び、物事を解決するためにこれは良い仕組みであると感じたことも、その後の協同組合に足を入れるきっかけとなった、と述べられていました。

今回の講義の中で志波さんは、自分の目に見えづらい問題の1つに「貧困」を挙げられていました。確かに、経済面などにおいて比較的恵まれている我々のような大学生にとって、貧困問題を抱えている人々と接点を持つことは少ないと考えられます。そのため、志波さんは子ども食堂や学習支援団体のボランティアを行うことによって、実態を把握することが大切なのではないか、と述べられていました。また、協同組合の活動に関して、何らかの物事に共感してくれる人ごとに集まって活動を進めることによって、より暮らしやすくなる、と述べられていました。すなわち、共感を組織すると、より暮らしが豊かになるということです。他にも、我々のようなZ世代は環境に配慮した活動を進めることが必要不可欠であるため、情報を集め続けることが大切であるということも述べられていました。その理由として、自然環境は常に変化しており、それに対応した活動を我々が進めなければいけないからである、と述べられていました。

今もなお、社会は目まぐるしく変化していますが、我々Z世代は柔軟に物事に対応しなければいけないということがわかりました。そのための一歩として、今回の講義は非常に良い経験となったと感じています。また、自分の興味のある社会問題について情報収集するなど、自分に取り組めることから始めていきたいと思いました。